

日本海洋科学振興財団 海外渡航費用援助 報告書

2025 年 5 月 21 日

氏 名		武田沙蘭
所 属 機 関	機関名 (大学院生は大学院と研究科名まで)	東京大学大学院新領域創成科学研究科
	職名 (学生は学年)	博士後期課程 3 年
渡航期間		2025 年 4 月 26 日 ～ 2025 年 5 月 18 日
渡航先		オーストリア・ウィーン、キプロス・ラルナカ
渡航目的とその 成果、感想		2025 年 4 月 27 日から 5 月 2 日まで、オーストリア・ウィーンにて開催された欧州地球科学連合（EGU: European Geosciences Union）総会に参加し、自身の研究成果についてポスター発表を行った。本総会は、地球科学に関する世界最大規模の国際学会の一つであり、さまざまな分野の研究者が一堂に会して活発な議論を行う貴重な場である。私の発表には国内外の研究者が関心を寄せてくださり、研究内容に対する具体的なフィードバックや今後の展開に関する助言を得ることができた。とくにアイルランドの研究チームとは研究内容に共通点が多く、個別にミーティングを行う機会を持つことができた。今後は共同研究の立ち上げに向けた協議を進める予定であり、今回の渡航が新たな国際的な連携の第一歩となった点でも、大きな意義があったと感じている。 また、EGU 後はキプロス・ラルナカへ移動し、国際深海科学掘削計画（IODP）の関連会議に参加した。本会議では、現在進行中および計画中の掘削プロジェクトに関する情報共有が行われ、今後の研究の方向性や国際協力の重要性について認識を深めることができた。これら一連の活動を通じて、自身の研究を国際的な文脈の中で位置づけ直すとともに、今後の研究の発展に向けた人脈形成や情報収集を行うことができた。今回の渡航は、学術的にも人的ネットワークの面でも非常に有意義な経験となった。

* 記入欄の大きさは適宜調整して下さい（1 ページを超えても結構です）